

---

# こおりやま広域圏

## チャレンジ「新発想」研究塾

### 2025

## 最終報告書

---



編集・発行 郡山市市民部ダイバーシティ推進課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

TEL 024-924-3351

E-mail [diversity@city.koriyama.lg.jp](mailto:diversity@city.koriyama.lg.jp)

本市ウェブサイトからも  
ご確認いただけます。



# 目次

1. こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」 研究塾とは P.2
2. 活動の経過 P.4
3. 報告会について P.9
4. 各班の提言内容： 第1班「Z世代が考える理想の自治会」 P.10
5. 各班の提言内容： 第2班「職員間コミュニティの形成及び人材育成」 P.11
6. 各班の提言内容： 第3班「子育て世代を対象とした支援事業」 P.12
7. 研究塾を振り返って P.13
8. 研究塾生名簿 P.15
9. こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」 研究塾設置要綱 P.16

## 1. こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾とは

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾（以下「研究塾」という。）は、住民ニーズを的確に捉え、地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するために設置されました。住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資することを目的としています。

### 若手職員による政策研究会の変遷

本市では、これまでも若手職員による政策研究会を設置し、新たな行政課題解決や、職員の政策立案能力向上に取り組んできました。

2018年度（平成30年度）からはこおりやま広域圏連携中枢都市圏（こおりやま広域圏）の連携事業として、こおりやま広域圏の市町村職員に対象者を拡大しました。

平成 8年度～平成17年度	『きらめき21推進研究会』
平成18年度～平成24年度	『ハーモニー推進研究会』
平成25年度～平成29年度	『チャレンジ市役所「新発想」研究塾』
平成30年度～	『こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾』

**塾生の対象をこおりやま広域圏17市町村に拡大！！**

### 参加者構成

今年度は、12市町村から熱意ある若手職員17名が公募により集まりました。

#### 市町村別内訳

郡山市(1)、須賀川市(2)、二本松市(1)、田村市(2)、本宮市(1)、大玉村(1)、鏡石町(1)、天栄村(1)、猪苗代町(2)、石川町(1)、三春町(3)、小野町(1)



## 2. 活動の経過

【スケジュール】

7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	
上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	
開講式・オリエンテーション				交流会										報告会	

※ 先進地視察: 10月上旬～11月上旬  
 ※ 調査・研究: 7月上旬～1月上旬

### 開講式・オリエンテーション (2025年7月3日)

開講式では、公募により集まったこおりやま広域圏から参加する研究塾生が出席し、塾長である椎根市長より激励を受けました。その後、オリエンテーションで事務局より今後のスケジュールや政策立案の進め方等を共有、グループワークを通じて班の顔合わせや課題共有を行いました。



開講式での市長挨拶の様子

### 調査・研究スタート (7月～1月)

<基本的な進め方>

- ・開催頻度、時間は塾生にて調整を行う。
- ・対面、オンラインを併用し討議を行う。
- ・討議内容は、記録票にまとめ、進捗等を事務局へ報告する。



討議の様子



### <テーマの決定>

各グループは、まず具体的な調査研究のテーマ設定に取りかかりました。

こおりやま広域圏が抱える課題等を元に、様々な地域が置かれる現状を調査していくことで、お互いの興味関心を踏まえ、調査研究の方向性を決定しました。

班	テーマ
第1班	Z世代が考える理想の自治会
第2班	広域圏職員の目的別コミュニティ形成と人材育成
第3班	こおりやま広域圏連携子育て支援DX事業

それぞれテーマごとに、具体的な提案内容について検討しました。課題は何なのか、その課題解決となる手法について、先進事例などを調査し、そして「こんな事業があったら面白い」と若手職員らしい『**新発想**』を追及しました。

### 交流会（2025年9月3日）

昨年度塾生と今年度塾生の交流会を実施。前半は研究内容の報告とアドバイス、後半は班ごとに経験に基づいた進め方の助言をいただきました。



昨年度塾生との活発な意見交換（交流会）

### 先進地視察

研究テーマに基づく実際の取り組みを知るため、各班で視察先を選定し、アポイント等も塾生各自で行い、知見を深めました。

班	視察先
第1班	松戸市役所 市民自治課
	市川市役所 自治振興課及びデジタル地域通貨推進課
	東京都 生活文化局都民生活地域活動推進課
	公益財団法人東京都つながり創生財団 共助推進課地域活動支援担当
第2班	福井市役所 職員課及び総合政策課
	福井県有志職員勉強会「福竜会」
	福井市有志職員勉強会「提案型勉強会」合同ワークショップ
	群馬県 地域創生部地域創生課地域支援・過疎係
第3班	東京都 デジタルサービス局デジタル戦略部デジタル企画調整課
	千代田区 政策経営部デジタル政策課
	横浜市 こども青少年局地域子育て支援課

※詳細は次ページ

## <第1班：Z世代が考える理想の自治会>

### 視察先

松戸市役所

市民自治課

### 視察内容

オリジナルキャラクターを用いた漫画やアニメによる加入促進、  
電子回覧板「自治会サポ！」の導入



### 視察先

市川市役所

自治振興課

デジタル地域通貨推進課

### 視察内容

デジタル地域通貨を活用した自治会加入者に対する、ポイント付与事業



### 視察先

東京都

生活文化局

都民生活地域活動推進課

### 視察内容

東京都から都内の自治会への様々な活動支援や補助金制度



### 視察先

公益財団法人

東京都つながり創生財団

共助推進課地域活動支援担当

### 視察内容

地域のつながりや自治会運営などの支援をキャラバン事業として運営

<第2班：広域圏職員の目的別コミュニティ形成と人材育成>

視察先

福井市役所

職員課及び総合政策課



視察内容

勤務時間の最大 20%を通常業務以外の活動に活用できる制度や若手職員がチャレンジできる場を創出するチャレンジ未来予算、業務改善に取り組むナッジユニット

視察先

福井県有志職員勉強会

「福竜会」

視察内容

職員同士の交流促進を目的とし、活動する楽しさを実感することを大切にしている勉強会

視察先

福井市有志職員勉強会

「提案型勉強会」

視察内容

庁内の部活として有志職員の自己啓発を実践。「意識高い系」ではなく、ハードルを下げたランチ会などを実施

視察先

群馬県

地域創生部地域創生課地域支援・過疎係



視察内容

県主催で、県内市町村が対象のオフライン交流会。業務として参加が可能。共通の課題を持つ市町村同士が交流できる場の提供を目指す。

<第3班：こおりやま広域圏連携子育て支援DX事業>

視察先

東京都デジタルサービス局

デジタル戦略部デジタル企画調整課



視察内容

子育て支援レジストリの構築やレジストリを活用した「プッシュ型子育てサービス」、子育て支援制度の「知りそびれ」「申し込みそびれ」「もらいそびれ」の解消

視察先

千代田区

政策経営部デジタル政策課



視察内容

東京都が行う「プッシュ型子育てサービス」先行プロジェクトへの参加やオンライン申請・決済システムの導入、「千代田区ポータルサイト（チヨダックス）」

視察先

横浜市

こども青少年局地域子育て支援課



視察内容

子育て世代向けアプリ「パマトコ」や24時間対応相談機能の導入、子育て手続きのオンライン化

### 3. 報告会について

7月に研究塾が開講して以降、約7ヶ月間にわたる調査研究の集大成として、2月5日に市町村長を始め、こおりやま広域圏自治体職員や視察先関係団体等に向け、各班より提言（プレゼンテーション）が行われました。報告会は現地会場のほかにオンライン（Zoom）による同時配信を行いました。



#### 代表挨拶【郡山市 松本 ちひろ さん】

郡山市 ダイバーシティ推進課 の松本と申します。今年度の『研究塾』の塾生を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年7月の開講式以降、こおりやま広域圏として取り組みたいと考える新たな政策提案に向けて、12自治体17名の研究塾生が3班に分かれ、議論を重ねるとともにテーマに関連する先進地視察を行い、研究を進めて参りました。

今年度の研究塾では、塾生自ら興味のあるテーマを考え、1班は「Z世代が考える理想の自治会」、2班は「職員間コミュニティの形成及び人材育成」、3班は「子育て世代を対象とした支援事業」と、それぞれの班が、こおりやま広域圏の抱える課題に着目し、これまでの常識にとらわれない、新しい発想での提案を検討してまいりました。

7か月間の活動を振り返りますと、普段は異なる自治体の職員である塾生同士が、同じ目標に向かって議論を重ねる、貴重な経験をすることができました。また、活発な議論を重ねる中で、班員との絆が生まれ、今後、それぞれのキャリアを積む中で、今後も情報交換やお互いの近況報告をしていきたいねなどと話すようになり、「こおりやま広域圏」を仲間と共に、よりよくしていきたいという当事者意識が、より鮮明なものとなりました。まさに、こおりやま広域圏の合言葉である「広め合う、高め合う、助け合う」ことを実感した日々でした。この経験を活かし、今後も所属自治体やこおりやま広域圏に貢献していきたいと思えます。

最後に、通常の業務もある中、塾生を快く送り出し、支えて下さった職場の皆さま、ご協力をいただきました視察先の皆さま、陰で支えていただいた事務局である郡山市ダイバーシティ推進課の皆様に、心から感謝を申し上げ、代表の挨拶とさせていただきます。

## 4. 各班の提言内容：第1班

※報告会時のプレゼン資料は市ウェブサイトをご覧ください。

### テーマ： Z世代が考える理想の自治会

#### <現状と課題>

- 自治会加入率の低下 : 郡山市では平成22年の67.5%から令和2年には61.4%へ減少。
- ライフスタイルの変化 : 共働き世帯の増加により、従来の活動参加が困難に。
- 若者の自治会離れ : 84%が活動内容を知らず、88%が加入方法を知らない現状。
- 事務負担 : 紙の回覧板や現金の集金業務が大きな負担となり、  
役員のなり手不足を招いている。

#### 提言内容

##### 1) 加入窓口の明確化

「キャラクターを用いた親しみやすい広報媒体の作成」「自治体公式 LINE への加入窓口設置(24時間申請可能化)」により、若年層のアクセス障壁を下げる。

##### 2) オープンチャットの導入

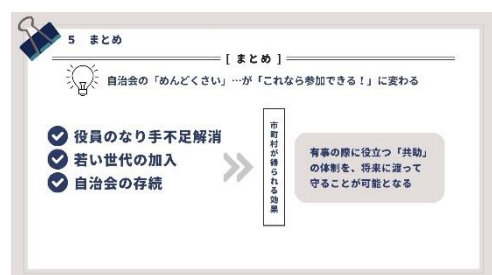
LINE オープンチャットを活用し、プライベートアカウントを明かさずに参加可能な環境を構築。電子回覧板としての活用や、サブトークルームでのオンライン役員会議を実現する。

##### 3) デジタル地域通貨の導入

会費の電子決済により集金負担を軽減し透明性を確保。また、新規加入時や活動参加時にポイントを付与し、地域内店舗での利用を促すことで地域経済の活性化も図る。

#### <期待される効果>

自治会事務のスリム化により、誰でも運営に関われる環境が整うことで、若い世代の加入促進や役員なり手不足の解消が期待されます。結果として、災害時の「共助」体制の維持・強化につながります。



## 5. 各班の提言内容：第2班

※報告会時のプレゼン資料は市ウェブサイトをご覧ください。

### テーマ：職員間コミュニティの形成及び人材育成

#### i <現状と課題>

- 人材育成の必要性：公務員数の減少に伴い、少数精鋭での成果が求められる。  
若手職員の特徴：コロナ禍でのキャリア形成やデジタルネイティブな特性を持つ一方、4人に1人が離職理由に「人間関係」を挙げる。  
ネットワーク構築の課題：業務外の交流機会が限られ、自己研鑽と業務の両立が困難。

#### 提言内容

##### 1) 広域圏版 20%ルールを導入

通常業務の最大 20%を、人材育成・相互支援・企画参画などの活動に充てられる制度を導入。所属長の下承のもと、庁内・広域圏での活動を認める。

##### 2) 目的別コミュニティの形成

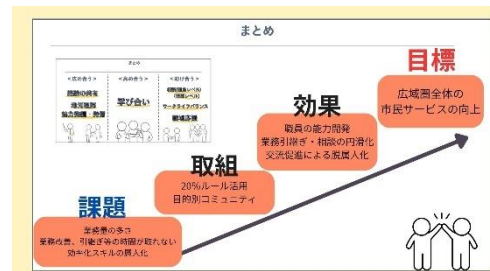
- 相談：デジタルプラットフォームとオフライン交流会での悩み相談。  
学び合い：異動希望先の体験、メンター間交流、システム活用術の共有。  
職場応援：他部署の企画参画や繁忙期応援。  
経験共有・その他：ノウハウ共有、産休育休カフェ、地域の魅力発掘。

##### 3) プラットフォームの構築

既存の庁内システムを活用した掲示板や、年1回の交流会などを通じて、活動の可視化とマッチングを行う。

#### <期待される効果>

職員のスキル底上げや定着率の向上、自治体間の連携強化が図られます。また、職員が孤立せず、意欲を持って働ける環境が整備されます。



## 6. 各班の提言内容：第3班

※報告会時のプレゼン資料は市ウェブサイトをご覧ください。

### テーマ：子育て世代を対象とした支援事業

#### <現状と課題>

- 人口減少と転出超過：こおりやま広域圏でも若年層の転出が顕著。  
情報の届きにくさ：共働き世帯が多く、複雑な申請や情報収集に時間を割けない。  
「情報のそびれ」が発生している。  
広域情報の分断：近隣市町村の情報が把握しづらく、  
Uターン者などが地域で孤立しやすい。

#### 提言内容

##### 1) こおりやま広域圏連携情報発信

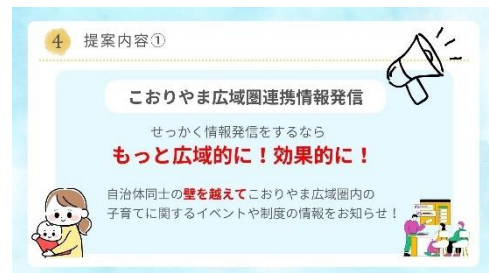
- 情報の集約・オープンデータ化：広域圏内のイベント・制度・施設情報を集約。  
アプリ・ウェブ発信：「母子モ」等と連携し、プッシュ型通知で  
必要な時期に必要な情報を届ける。  
可視化ツール：「子育てカレンダー」や、  
施設の空き状況がわかる「子育てマップ」の整備。

##### 2) 24時間オンライン相談受付

- 広域圏で体制を整備し、産休・育休中の有資格者（医師・保健師等）を活用。  
AIではなく専門家による、寄り添った回答を24時間提供する。

#### <期待される効果>

住民側は「知りそびれ・申し込みそびれ」がなくなり、安心して子育てができる環境が得られます。行政側は事務負担が軽減され、より効果的な政策検討に時間を充てることが可能となります。



## 7. 研究塾を振り返って

### アンケートより抜粋

#### <研究塾に参加して良かった点>

- 研修をとおして、さまざまな自治体の人と関わることができ、自身の視野や交流を広げることができた点が、とてもよい経験になったと思う。日々の業務ではなかなかできない、自分たちの興味がある分野で、自分たちのやってみたいと思うことを、提案というところまでだが、形にできたことは、大変勉強になり、またやりがいを感じた。
- 視野が広がった。同年代との交流や考えを共有する場は貴重なため、参加できて良かった。
- 他市町村職員との交流が深まりました。政策立案する流れや研究課題への取り組み方は、今後の人生の大きな財産になりました。

#### <研究塾に参加して苦労した点>

- 通常業務との折り合いがつかず、何度か討議や視察に参加できなかったのが心残りでした。
- 日常業務と並行しながら、意見交換や資料作成を進めた点
- 提案の発表時間が限られている中で具体性と説得力のある説明をすることは非常に困難であり、先進地の内容など、詳細を十分に盛り込めない点が見られた。

#### <研究塾を終えた感想、今後の抱負など>

- 研究塾を通して、政策形成の一連の流れや先進地視察に伴うスケジュール調整を実践的に学ぶことができ、大変有意義でした。今回の経験を踏まえ、資料作成や日程調整の効率化を図り、今後の研究や実務に活かしていきます。
- 町及び広域圏の課題を考える良い機会になりました。高齢化や少子化が進む中で、町の課題改善のために調査研究することは必要であるため、今回の経験を活かしていきたいです。
- 他市町村の方と関わり何かするという事は今回の研究塾が初だったが、グループの方に支えられ発表する事ができたので、とても良い経験だった。

## 事務局から

約7ヶ月間の活動を通じて、参加した17名の若手職員は以下のような成果を得ることができました。

- 絆の形成           : 異なる自治体の職員同士が同じ目標に向かって議論を重ね、  
                          広域圏の「広め合う、高め合う、助け合う」を実践しました。
- 知見の拡大       : 先進地視察や自主研究を通じ、  
                          従来の業務の枠を超えた政策形成能力が向上しました。
- 人的ネットワーク: 今後の業務連携の基盤となる、  
                          強固な職員間ネットワークが構築されました。

通常業務と並行して研究塾での活動、お疲れさまでした。塾生同士の交流は、広域圏各市町村を結ぶ貴重なネットワークの基盤です。このつながりをぜひ皆さまの今後の活動に活かしていただき、自治体の垣根を超えた新たな事業が生まれることを心より期待しております。また、来年度も今年度同様に交流会を開催する予定です。その際には、今年度得られた知識や経験をもとに、次期塾生のサポートをお願いできれば幸いです。

## 8. 研究塾生名簿

### ▼第1班

No.	市町村	所属	職名	氏名
1	須賀川市	商工課	主事	小針 侑也
2	二本松市	税務課	主事	根本 真菜
3	鏡石町	福祉こども課	主事	古川 拓也
4	天栄村	住民課	主事	揚妻 未来
5	猪苗代町	税務課	主事	齋藤 健介
6	三春町	産業課	主事	大石田 朱香

### ▼第2班

No.	市町村	所属	職名	氏名
1	郡山市	ダイバーシティ推進課	主事	松本 ちひろ
2	須賀川市	道路河川課	主事	本田 雅人
3	田村市	農林課	主事	石井 尚樹
4	本宮市	税務課	主事	遠藤 一心
5	猪苗代町	町民生活課	主事	富山 絵梨香
6	三春町	保健福祉課	主事	穴戸 太陽

### ▼第3班

No.	市町村	所属	職名	氏名
1	田村市	常葉行政局	主事	荒井 孝介
2	大玉村	産業課	主事	官野 優哉
3	石川町	企画商工課	主事	高木 遥香
4	三春町	生涯学習課	主事	酒井 ほの香
5	小野町	産業振興課	主事	鈴木 秀弥

## 9. こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱

こおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾設置要綱

(設置)

第1条 住民ニーズを的確に捉え地域の魅力を高めた住民満足度の高いまちづくりを実現するため、住民生活を直視し、新しい発想のもと知恵と工夫を活かした実効性のある施策の調査研究を行うとともに、こおりやま広域圏の若手職員の政策形成能力の向上に資するこおりやま広域圏チャレンジ「新発想」研究塾（以下「研究塾」という。）を設置する。

(調査研究事項等)

第2条 研究塾は、広域連携により効果的に解決すべき課題について、次に掲げる事項を調査研究し、その成果を郡山市長及びこおりやま広域圏各市町村長に報告する。

- (1) 住民福祉の増進につながる取組み
- (2) 自主的・自立的なまちづくりのための取組み
- (3) 先導性・モデル性のある取組み
- (4) こおりやま広域圏の発展に資する取組み
- (5) ICT 利活用による取組み

(組織)

第3条 研究塾は、公募または各自治体の所属の長が推薦する研究塾生をもって構成する。

- 2 研究塾に代表及び副代表1人を置き、研究塾生の互選によって定める。
- 3 代表は、研究塾を代表し、会務を総理する。
- 4 副代表は、代表を補佐し、代表に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、代表が招集し、代表が会議の座長となる。

- 2 代表は、特に必要があると認めるときは、研究塾生以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(研究班)

第5条 研究塾に調査研究事項に応じ、専門的に調査研究を行うため、市民部長が定める数の研究班を置く。

- 2 研究塾生は、いずれかの研究班の班員となる。
- 3 研究班に班長及び副班長1人を置き、班員の互選によって定める。
- 4 班長は、研究班を代表し、その事務を掌理する。
- 5 副班長は、班長を補佐し、班長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 研究班の会議は、班長が招集し、班長が会議の座長となる。
- 7 班長は、特に必要があると認めるときは、会議に班員以外の者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。
- 8 班長は、関係課等の長に、調査研究上必要な資料等の提供を求めることができる。

(各課の協力)

第6条 課等の長は、研究塾における調査研究の過程において、必要な説明、資料等の提供を求められたときは、速やかにこれに応じるよう努めなければならない。

(庶務)

第7条 研究塾の庶務は、市民部ダイバーシティ推進課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、研究塾の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年8月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月13日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月25日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年7月22日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年6月11日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和7年4月1日から施行する。